**取扱説明書**

|  |  |
| --- | --- |
| double CharacterRecognition(char\* TargetImage,char\* TemplateFileGroup[]) | 文字マッチング、BMP画像をサポートし、戻り値はターゲット画像がマッチングしたテンプレートファイルのシーケンス番号であり、戻り値が2であれば画像とシーケンス番号が2（シーケンス番号がゼロから始まる）のテンプレートのマッチングを説明する。  リファレンス：TemplateFileGroup[]={ "0.txt", "1.txt", "2.txt", "3.txt", "4.txt", "5.txt", "6.txt", "7.txt", "8.txt", "9.txt" }; |
| double CharacterRecognition1(char\* TargetImage,char\* TemplateFileGroup[]) | 文字マッチング、BMP画像をサポートし、戻り値はターゲット画像がマッチングしたテンプレートファイルのシーケンス番号であり、戻り値が2であれば画像とシーケンス番号が2（シーケンス番号がゼロから始まる）のテンプレートのマッチングを説明する。  リファレンス：TemplateFileGroup[]={ "0.txt", "1.txt", "2.txt", "3.txt", "4.txt", "5.txt", "6.txt", "7.txt", "8.txt", "9.txt" }; |
| void CodeEncoding(std::string input,char\* output, int width,int height, int margin, int eccLevel, int stride\_bytes, int comp,int a) | 2次元コード符号化，バーコードコーディング。inputは符号化する文字列であり、outputは生成される2次元コード画像ファイル名である。  margin：バーコード周辺のマージン  ecc：誤り訂正レベル，[0-8]  a=1：AZTEC  a=2：CODABAR  a=3：CODE\_39  a=4：CODE\_93  a=5：CODE\_128  a=6：DATA\_MATRIX  a=7：EAN\_8  a=8：EAN\_13  a=9：ITF  a=10：MAXICODE  a=11：PDF\_417  a=12：QR\_CODE  a=13：RSS\_14  a=14：RSS\_EXPANDED  a=15：UPC\_A  a=16：UPC\_E  a=17：UPC\_EAN\_EXTENSION  リファレンス：margin=10，eccLevel=-1，stride\_bytes=0，comp=1。 |
| std::string CodeDecoding(char\* input,int req\_comp,int a) | 2次元コード復号，バーコード復号。inputは入力された2次元コード画像ファイル名であり、復号結果を返す。  a=1：Lum  a=2：RGB  a=3：BGR  a=4：RGBX  a=5：XRGB  a=6：BGRX  a=7：XBGR  リファレンス：req\_comp=4，a=4。 |